

きいて・めもして・こたえよう

らくご か はなし でんとうげいのう せかい 落語家の話・伝統芸能の世界

なまえ
名前

聞くめあて らくご か 落語家になるための「修行」と、「話芸のくふう」を、分けてメモしましょう。

ことば しゅぎょう わげい
おとさない言葉：修行・話芸のくふう

ほうそう
放送が終わったら、
ひら
開いて問題に答えましょう。



やまおり

(1) 落語家になるために、まず必要なことは何だと言っていましたか。

(2) 落語の修行について、正しいものはどれですか。○をつけましょう。

ア 何百もの話を覚え、一人前まで何年もかかる

イ 一日で全部覚えられる

ウ 修行はまったくいらぬい

(3) 落語家が使う道具は、何と何の二つだけだと言っていましたか。

(4) 三山亭さんが話した「落語のいちばんのみりよく」はどれですか。○をつけましょう。

ア 聞く人の想どう力で、目に見えないものをいっしょにえがくこと

イ たくさんの道具を使うこと

ウ 大きな声を出すこと

(5) あなたが「受けついでいきたい」と思う、日本の伝統や文化は何ですか。理由とともに書きましょう。

すすめ方

- ① 中央の点線で山折りにして、「めも」の面だけを表にする (問題を先に見せない)。
- ② この放送文を先生が読む (または用意した音声流す)。**読む回数：1回**。聞きながらメモを取らせる。
- ③ 放送が終わったらプリントを開き、メモを見ながら問題に答えさせる。

放送文

今日は、落語家の、三山亭さんをおまねきました。日本に、古くから、伝わる、伝統芸能、落語。その、きびしい、修行と、話芸の、くふうについて、うかがいましょう。

「落語家に、なるには、まず、弟子入りが、必要です」と、三山亭さんは、話します。「師しょうの、家で、そうじや、身の回りの、世話を、しながら、話を、覚えます。おぼえる、話の、数は、何百とも、いわれます。一人前と、みとめられるまで、何年も、かかる、きびしい、道です。」

「落語の、おもしろさは、話芸の、くふうに、あります」と、三山亭さんは、続けます。「落語家は、たった、一人で、何人もの、役を、演じ分けます。使う、道具は、せんすと、手ぬぐいの、二つだけ。せんすを、はしに、見立てたり、手ぬぐいを、手紙に、見立てたり、するのです。声の、高さや、間の、取り方で、おじいさんにも、子どもにも、なりきります。」

「落語は、聞く人の、想ぞう力で、完成します」と、三山亭さんは、言いました。「わたしが、『ここに、大きな、そばが、あります』と、言えば、みなさんの、頭の中に、そばが、うかぶ。目に、見えない、ものを、いっしょに、えがく。それが、落語の、いちばんの、みりよくです。」

「この、話芸を、次の、時代へ、受けついで、いきたい」と、三山亭さんは、ほほえみました。「みなさんも、ぜひ、一度、寄席に、足を、はこんで、日本の、伝統芸能に、親しんで、ください。」

メモのれい

落語家・三山亭さんの話 (修行・話芸のくふう)

修行：弟子入り→師しょうの家で世話をしながら話を覚える／何百もの話／一人前まで何年も

話芸のくふう：一人で何役も演じ分け／道具はせんすと手ぬぐいだけ (はし・手紙に見立て)／声の高さ・間で人物を演じ分け

みりよく：聞く人の想ぞう力で完成／目に見えないものをいっしょにえがく→伝統を次の時代へ

こたえと かいせつ

(1) 弟子入り

「落語家に、なるには、まず、弟子入りが、必要です」と言っていました。

(2) ア (何百もの話を覚え、一人前まで何年かかる)

「おぼえる、話の、数は、何百とも…何年も、かかる、きびしい、道」と話しました。

(3) せんすと手ぬぐい

「使う、道具は、せんすと、手ぬぐいの、二つだけ」と言っていました。

(4) ア (聞く人の想ぞう力で、目に見えないものをいっしょにえがくこと)

「落語は、聞く人の、想ぞう力で、完成します」がみりよくだと話しました。

(5) (例) おはやしの太こを受けついでいきたい。地いきのお祭りをこれからも続けたいと思うから。

受けつぎたい伝統・文化と理由が書けていれば正解です。